

筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事

図面番号	図面名称	縮尺
A-01	表紙、図面リスト	—
A-02	改修工事特記仕様書（1）	—
A-03	改修工事特記仕様書（2）	—
A-04	改修工事特記仕様書（3）	—
A-05	改修工事特記仕様書（4）	—
A-06	アスベスト含有建材除去等工事特記仕様書（1）	—
A-07	アスベスト含有建材除去等工事特記仕様書（2）	—
A-08	付近見取り図、配置図	1/500
A-09	【改修前、改修後】1階平面図	1/200
A-10	【改修前、改修後】2階平面図	1/200
A-11	【改修前、改修後】3階平面図	1/200
A-12	【改修前、改修後】4階平面図	1/200
A-13	【改修前、改修後】R階平面図	1/200
A-14	【改修前、改修後】東・西側立面図	1/300
A-15	【改修前、改修後】南側立面図	1/300
A-16	【改修前、改修後】北側立面図	1/300
A-17	【改修前、改修後】矩計図	1/30
A-18	【改修前、改修後】1, 2, 4渡り廊下詳細図	1/50
A-19	【改修前、改修後】EXP. J詳細図（参考図）	1/50
A-20	外壁劣化数量表・外壁劣化調査図 1	—
A-21	外壁劣化調査図 2	—

② 施工中の安全確保

建築基準法、労働安全衛生法、その他関係法令等により定めるところによるほか、
建設工事公衆災害防止対策要綱に従うとともに、建築工事安全施工技術指針を参考に、常に工事の安全に留意して現場管理を行い、施工に伴う災害及び事故の防止に努める。

(1.3.1)

③ 建設リサイクル法

建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）の対象となる工事に該当
※現場説明書による ・する ・しない

④ 建設副産物の処理について

※参考受入場所等は現場説明書による
建設副産物の処理について
資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。
現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別し指定された場所へ集積すること。
また、施工区分区に積み込み・運搬・処分までの指示がある工事については、現場内に分別保管場所を設置するとともに、再生資源の利用の促進に関する法律、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。
工事に際しては、工事着手時に建設副産物処理計画書、再生資源利用計画書等を、工事竣工時に建設副産物の処理結果報告書、再生資源利用実施書等を提出すること。

(1.3.12)

⑤ 施工中の環境保全等

指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）
がれき類（コンクリート塊）
（アスファルト塊）
木くず
建設発生土
汚泥
指定副産物の工事現場からの搬出、再生資材等の利用等については、「リサイクル原則化ルール（平成18年6月12日策定）」により実施する。
建設汚泥については、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン（平成18年6月12日 事務次官通知）」に従い、建設汚泥の再生利用を推進する。

⑥ 再資源利用（促進）

その他の廃棄物
廃プラスチック ガラス、陶磁器くず 廃石膏ボード 金属くず 繊維くず

⑦ 建築材料等

特別管理産業廃棄物
廃石棉等
「建築物の解体等に係る石棉飛散防止対策マニュアル（環境省水・大気環境局大気環境課）」及び「石棉障害予防規則（平成17年7月1日施行）」に従い、収集、運搬、処分を行う。
廃PCB等
「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適正に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

⑧ 施工数量調査

建築基準法、建設リサイクル法、環境基本法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、資源有効利用促進法その他関係法令等により定めるところによるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉じん、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないように、周辺環境の保全に努める。

(1.3.11)

⑨ 技能士

排出ガス対策型建設機械について
「排出ガス対策型建設機械指定要領」に基づき、指定された建設機器を使用すること。
（対象機種：バックホ、ブローザ、ドラグクローバ（車輪式）、空気圧縮機（可動式）、油圧ユニット（油圧ハイドラース）油圧式鋼管圧入引抜機・油圧式杭圧入引抜機・アスガ・オールラジック 掘削機 リバ・オールラジック）リ、アスド）地下連続壁施工機・全周転型・ドラグ）掘削機の基礎工事用機械のうち、スワッチとは別に独立したディ・エンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの、ロードロー、クレーン、振動ロー、ワイヤロー、発電電動機（可動式（溶接用機を含む））但し、以上はディ・エンジン（エンジン出力7.5Kw以上260Kw以下）を搭載したものに限る。）
工事における振動被害防止要領の適用 振動計の設置については現場説明書による

⑩ 建築材料等

※ 提出する ・提出しない
本工事に使用する建築材料等は、設計図面に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、「同等のものとする場合は、監督員の承諾を得る。」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房官制部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」による。福岡県認定リサイクル製品の使用製品名及び使用部位については、現場説明書によること。標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受け、当該製品の指定工法によることができる。

(1.4.1)

⑪ 施工数量調査

環境への配慮について
国による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）により、環境負荷の低減できる材料を選定すること。
使用する材料の選定に当たっては、揮発性有機化合物の放出による健康への影響に配慮すること。
工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとする。
指定品目、判断基準は「福岡県環境物品等調達方針」によること。

⑫ 技能士

調査項目	調査範囲	調査方法	報告書・数量書
		全面打診	※2部
			※2部
			※2部
			※2部

※既存部分の破壊を行った場合の補修方法は図面図示による。

(1.5.2) (1.5.3)

⑬ 技能士

適用工事

工事種別	技能認定職種	備考
・鉄筋工事	鉄筋施工	
・コンクリート工事	型枠施工	
・木工事	建築大工	
・左官工事	左官	
・塗装工事	塗装	
・屋根及び構工事	建築板金	
・内装工事	内装仕上げ施工	
・内装工事	表装	
・金属工事	内装仕上げ施工（鋼製地下）	
・組立工事	造園	請負額 300万以上

⑭ 施工の検査等

見本施工の実施箇所（ ） 工種（ ）

(1.6.5)

⑮ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定

室内空気中化学物質の濃度測定 ・行う ・行わない
ホルムアルデヒド測定の検体数 ・ 箇所
VOC測定の検体数 ・ 箇所
測定対象室
※現場説明書による ・図示
測定時期、測定位置、方法については、測定前に監督員に確認する。
測定方法等は「揮発性有機化合物の室内測定要領」参照
※学校施設については、文部科学省「学校環境衛生基準」（平成21年4月1日告示第60号）に基づきVOC等の測定を行う。

(1.6.9)

22

完成図等

種類及び提出形式は下記による

(1.2.1)

種 類	提 出 形 式	部 数
完成図 ※設計図一式	※二折り白焼き製本（A１） ※CＡＤデータ（JWW又はD X F） ※P D Fデータ（竣工図電子データ作成要領による）	※１部 ・（ ）部
総合図 ※一式	※二折り白焼き製本（適宜 A１又は A３） ※ C A D データ（JWW）	※１部 ・（ ）部
施工図 ※構造躯体 ※平面図 ※建具 ※屋根及び樋 ・（ ）	※二折り白焼き（適宜 A１又は A３） ※ C A D データ（JWW）	※１部 ・（ ）部
工作図 ※家具図 ・（ ）	※二折り白焼き（適宜 A１又は A３） ※ C A D データ（JWW）	※１部 ・（ ）部

(注) データの提出はCD-R、DVD-R又はUSBフラッシュメモリーに保存して提出すること。

23

保全に関する資料

「改修仕様」1.8.3(1)の他、下記について必要事項を記入のうえ監督員に提出する。
建設大臣官房官庁営繕部監修の「管理者のための建築物保全の手引き」
提出部数 ※２部 ・（ ）部
保全に関する説明書 ※建物概要及び内部仕上り表 ※施工程一覧表
※取り扱い説明書、メンテナンスについての注意事項 (1.8.3)

24

設計 G L

※図示による ・現状地盤の平均高さとし、監督員の指示による

25

過積載の防止

ダンプトラック等による工事用資機材等の過積載を行わないこと。さし枠の設置又は物品積載装置の不正改造をしたダンプトラックは工事現場内に入出入りさせないこと。

26

解体等工事の範囲

解体等工事にかかる範囲は以下のとおり。
・建築物 地上部・地下部・杭・（ ）
・付属構造物 ・浄化槽・貯油槽・杭・（ ）
・電気設備 ・建物内配管配線 ・電気設備機器 ・（ ）
・建物への引込線 ・敷地への引込線（廃止） ・（ ）
・給排水設備 ・建物内配管配線 ・衛生設備機器 ・（ ）
・建物への引込管 ・敷地への引込管（玉下ろし） ・（ ）
・空調設備 ・建物内配管 ・空調設備機器 ・建物内風道 ・（ ）
・ガス設備 ・建物内配管 ・ガス設備機器 ・（ ）
・建物への引込管 ・敷地への引込管（廃止） ・（ ）
・屋外付帯 ・門、門扉・塙、フェンス・舗装 ・（ ）
・植栽（ ） ・（ ）
・有害廃棄物の処理 ・廃PCB ・特定フロンガス ・廃石綿等 ・（ ）
・什器、備品類等の撤去
・各種残留物等の撤去は下表による。 ※を標準とする。

区 分	建物管理者	工事誘負者
アスベスト含有建材		※
オイルタンク内のオイル	※	
ビット（浄化槽、便槽）汚泥	※	
使用されていた酸、アルカリ、薬品等	※	
医療系特別管理産業廃棄物、放射性廃棄物	※	
フロン、ハロゲン使用機器		※
P C B 使用機器		※

27

敷地に関する調査

・敷地内障害物の調査 ・敷地内配管、配線の調査 ・地下水位の調査
・原形復旧
工事中、取合部その他本工事範囲外の部分に汚損が生じた場合は原形に復する。
※施工区分表による
・施工範囲は下記による
※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強
※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強
※駆動装置が電動による建具類の２次配線及び操作スイッチ
※自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強
・（ ）

30

風速及び
地表面粗度区分

風速 （ ・ 32 m/秒 ・ 34 m/秒 ）
地表面粗度区分（Ⅰ ・ Ⅱ ・ Ⅲ ・ Ⅳ ） (各章共通)

㉑

接着剤

ホルムアルデヒド放散等級（※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ F☆☆ ） (各章共通)

㉒

総合図での調整

各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承認を受ける。
総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報などをすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。
総合図の調整は、建築工事の誘負者が行い、設備工事・その他の誘負者がそれに協力する。

㉓

参考図の取り扱い
(パー仕様図面)

参考図の製品等の使用にあたっては、参考図以外の形状等に多少相違がある製品等でも同等品以上であれば使用できる。

㉔

竣工後の調査

竣工後（※２ ・ １）年以内に当該工事範囲に関する経年変化の状況を調査し、報告すること。

㉕

足場その他

手 す り 先 行 足 場 に つ い て

足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号平成21年4月24日）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立て、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、手すり、中横及び間幅木の機能を有するものを設置しなければならない。
なお、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

内部足場 ※鋸趾・足場板等 ・（ ） (2.2.1)
外部足場 ・枠組足場 ・くさび緊結式足場 ・単管足場 ・（ ）
防護シートによる養生 ※行う ・行わない
材料、撤去材等の運搬 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 (表2.2.1)

28

養生

既存部分の養生 ※ビニールシート等 ・合板 ・（ ） (2.3.1)
固定家具の養生 ・行わない ・行う（図示）
既存家具の養生 ※ビニールシート等 ・（ ）

3

仮設間仕切り

仮設間仕切り等の種類 (2.3.2)（表2.3.1）

種別	下地	仕上材（厚さ）	充てん材	塗装	設置箇所	
A種	軽量鉄骨	合板（※9.0 ・ 12.0）	厚さ mm	※無し ・片面	図示による	
	B種	木下地				右こうボード（※9.5 ・ ）
	C種	単管下地				
仮設扉	木製扉	※合板張り程度	／	※無し ・片面		
	鋼製扉	（ ）程度				

備考

承認覧

<

④ 監督員事務所

※設ける ・ 設けない
※構内に新設する。(m程度)
・ 既存建物内の一部を使用する。
監督員事務所に設ける設備、備品については監督員との協議による。

⑤ 工事用水

構内既存の施設 ○ 利用できる(※有償 ・ 無償) ※利用できない

⑥ 工事用電力

構内既存の施設 ○ 利用できる(※有償 ・ 無償) ※利用できない

⑦ 総合仮設計画書

※要する ・ 要しない

⑧ 危険防止

仮囲い等 ※設ける ・ 設けない
設置方法 ※ 成形鋼板(H= m) ・ 亜鉛鉄板(H= m) ・ シート張り
・ ロープ張り ・ ()
ゲート ・ シート(W=4.5m) ・ パネル(W= m)
・ ハンガー(W= m)
垂直防護施設 ・ メッシュシート(・ 防災Ⅰ類 ・ 防災Ⅱ類) ・ 防音シート(防災Ⅰ類同等)
・ 枠付き金網 ・ アルミ防音パネル ・ ()
水平防護施設 ・ 防護柵(朝顔) ・ ダブルネット
防護施設等取付足場 ・ 単管一本足場 ・ 枠組本足場(W= m) ・ ()
設置範囲 ※図示による ・ 監督員の指示による
設置期間 ※工事期間中 ・ 監督員の指示による

9. 構台

養生構台 ・ 設置する(図示による) ・ 設置しない
乗入れ構台 ・ 設置する(幅員 m、長さ m) ・ 設置しない

⑩ 工事表示板等

監督員の指示による

⑪ 工事車両の出入口

工事用車両の出入口では、一般通行人及び一般車両の安全確保に努めること。
交通誘導員 ○ 配置する(1 名以上) ・ 配置しない

① 改修方法の種類及び工程

防水改修方法の種類及び工程については「改修標準」表3. 1. 1による。(表3. 1. 1)
シーリング改修方法の種類及び工程については「改修標準」表3. 1. 2による。(表3. 1. 2)

2. アスファルト防水

(3. 3. 2. 3) (表3. 1. 1) (表3. 3. 3～10)

	防水改修工法種別	新規防水層の種別	施工箇所
保護防水	・ P16工法	・ B-1 ※ B-2	
	・ P18工法 ・ T18工法	・ B1-1 ※ B1-2	
	・ P2A1工法	・ A1-1 ※ A1-2	
	・ P2A工法	・ A-1 ※ A-2	
露出防水	・ M4C工法	・ C-1 ※ C-2	
	・ M3D工法 ・ POD工法	・ D-1 ※ D-2	
	・ POD1工法 ・ M3D1工法	・ D1-1 ※ D1-2	
	・ M4D1工法		
屋内防水	・ P1E工法 ・ P2E工法	・ E-1 ※ E-2	
			(保護層は図示による)

アスファルトの種類 ※3種 (3. 3. 2) (3. 3. 2)
M3D、POD、POD1、M3D1、及びM4D1工法の脱気装置 ※設ける ・ 設けない (3. 3. 3)
断熱工法の断熱材 (3. 3. 2)
※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種b A (スギン層付き) 厚さ(mm) ※25 ・ ()
・ 図示による
立上り部の保護材 (3. 3. 2)
・ 乾式保護材 ※押出成型セメント版(厚さ15mm)
・ れんが ※JIS R 1250によるもの
・ 市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロック(見え隠れ部分)
・ コンクリート 仕上りの平たんさ ※a種 ・ b種 ・ c種 (表8. 1. 5)

3. 改質アスファルトシート防水

(3. 4. 2. 3) (表3. 1. 1) (表3. 4. 1～3)

防水改修工法の種別	新規防水層の種別	厚さ(mm)	施工箇所
・ M4AS工法	・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2		
・ M3AS工法	・ AS-T3 ・ AS-T4 ・ AS-J1		
・ POAS工法	・ AS-J3		
・ M3ASI工法			
・ M4ASI工法	・ ASI-T1 ・ ASI-J1		
・ POASI工法			

M3AS1、M4AS1及びPOAS1工法の防漏用シート ・ 設ける ・ 設けない (表3. 4. 3)
M3AS、POAS、M3AS1、M4AS1及びPOAS1の脱気装置 ※設けない ・ 設ける (3. 4. 3)

(3. 5. 2. 3) (表3. 1. 1) (表3. 5. 1. 2)

防水改修工法の種別	新規防水層の種別	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・ P0S工法	・ S-F1 ○ S-F2		・ シルバー	※非歩行
・ S4S工法	・ S-M1 ○ S-M2		・ カラー	
	・ S-M3		・ 製造メーカー仕様	
・ P0S1工法	・ S1-F1 ・ S1-F2			
・ S4S1工法	・ S1-M1 ・ S1-M2			
・ S3S工法	・ S-F1 ・ S-F2			
・ S3S1工法	・ S1-F1 ・ S1-F2			
・ M4S工法	・ S-M1 ・ S-M2			
	・ S-M3			
・ M4S1工法	・ S1-M1 ・ S1-M2			

仕上げ塗料の使用量等 ※シートの製造所の仕様による ・ () (3. 5. 3)
脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない (3. 5. 4)
目地処理 ※図示による ・ () (3. 5. 4)

⑤ 塗膜防水

(3. 6. 3) (表3. 6. 1)

施工箇所	改修工法種別	新規防水層種別	仕上げ塗料塗り
・ P0X	※ X-1	※ カラー ・ シルバー	
・ L4X	※ X-2	※ カラー ・ シルバー	

脱気装置 ※図面図示による ・ 種類() ・ 設置数量()

⑥ シーリング

シーリング改修工法の種類 (3. 1. 4) (表3. 1. 2)
・ シーリング充填工法 ○ シーリング再充填工法
・ 拡張シーリング再充填工法 ・ ブリッジ工法
シーリング材の種類
「改修標準」表3. 7. 1による。(表3. 7. 1)
接着性試験 ※ 簡易接着性試験 (3. 7. 8)
・ 引張接着性試験(部位)

事業名称

筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事

改修工事特記仕様書(1)

尺度	図面番号
日付	
A-02 02 / 21	

[illegible]

No.2

章

項 目

特 記 事 項

6. 検査及び後片付け

1) 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床などの清掃を行う。
2) 監督職員立会いのうえ、除去が十分に行われたかを、目視により検査を行う。
3) 養生用のプラスチックシートに付着した粉じんの再飛散を防止するために、シート全体にまんべんなく粉じん飛散抑制剤を散布する。
4) 壁面等の養生用のプラスチックシートの撤去は、負圧・除じんを十分に吸引し、通過した時点又は粉じん飛散抑制剤吹付後、沈降した時点で行う。
なお、シートは、取り外して粉じん付着面を内側にして折りたたみ、プラスチック袋に入れる。
5) 養生を行っていない足場、仮設材を清掃した後に解体撤出する。
6) 床養生用プラスチックシートは、粉じん付着面を内側にして折りたたみ、プラスチック袋に入れる。
7) 養生用のプラスチックシート等の廃棄物は、5.⑦により処理等を行う。
8) 後片付け終了後は、高性能真空掃除機で床等の清掃を行う。

7. 施工記録

1) 施工記録報告書を作成し、監督員に提出する。
2) 施工記録報告書は、下記事項により作成する。
(i) 施工計画書
(ii) 工事記録及び工事写真
(iii) 産業廃棄物処理記録
(iv) 施工調査等記録
(v) 作業者の作業記録、各種健康診断記録、安全衛生教育記録
作業者の作業記録、特殊健康診断記録は石綿則により40年間保存しなければならない。
(vi) その他必要事項

7. 施工調査等

1. 施工調査等

施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。
(i) 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。
調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。
① アスベスト含有保温材等の使用部位の確認
② アスベスト含有保温材等の厚さの確認
③ 施工範囲と工事管理区分の確認
④ 廃棄物などの撤出方法
(ii) アスベスト粉じん濃度測定は6.1(ii)に準じて行う。

2. 施工計画書

(i) 施工計画書
着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承認を受ける。
なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。
① 工事概要
ア 工事名称
イ 工事場所
ウ 工事期間
エ 工事内容
オ その他
② 管理組織
③ 安全衛生管理及び飛散防止対策
④ 使用用具、器具類、材料及び調合
⑤ 工事の流れ
⑥ 仮設計画（足場、養生）
⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）
⑧ 確認、検査方法
⑨ 工事工程表
⑩ その他必要事項
2) 官公署その他への手続き等
一般建築工事の手続きのほか、地方公共団体が定めている手続きを行う。

3. 安全衛生管理

1) 建物内部で除去作業を行う場合は、作業場所を他の場所を隔離する。
なお、作業場所において、開閉部位（出入口、喚起孔、窓等）は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部分を、プラスチックシート等で塞ぐものとする。
2) 建物外周部で除去作業を行う場合は、当該部分をプラスチックシート等で囲い、該部分をプラスチックシート等で囲い、周辺環境へのアスベスト飛散を防止する。
3) 作業場所内では、除去に関する作業以外の作業は厳禁とする。
4) 表示、指示については「改修標仕」9.1.2(i)に基づいて行う。
5) アスベスト保温材等の切断、穿孔、研磨等の作業が伴うものは「改修標仕」9.1.3(a)に基づき隔離を行う。なお、グローブバック方式を使用して該当除去部分を覆う場合も隔離と見なす。

4. 除去処理工事

アスベスト含有保温材等（煙突用断熱材は除く）の除去は可能な限り粉じん飛散抑制剤で十分に湿潤化した後、手ばらしで行うこと。
手ばらし以外の除去（グローブバック方式による除去は除く）の場合は、「改修標仕」9.1.3および「改修指針」9.1.3による。

5. 汚染物処分工事

(i) 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修標仕」9.1.3(b)②および「改修指針」9.1.3(b)②により、密封処理する。
(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚重機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。
なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分等については、「改修標仕」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。

6. 検査及び後片付け

6.6に準じて行う。

8. 施工調査

1. 施工調査

施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。
処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。
調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。
(i) アスベスト含有成形板使用部位の確認
(ii) アスベスト含有成形板の種別、厚さ等の確認
(iii) アスベスト含有成形板使用数量の確認
(iv) 施工範囲と工事管理区分の確認
(v) 廃棄物等の撤出方法について

2. 施工計画書

(i) 施工計画書
着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承認を受ける。
なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。
① 工事概要
ア 工事名称
イ 工事場所
ウ 工事期間
エ 工事内容
オ その他
② 管理組織
③ 安全衛生管理及び飛散防止対策
④ 使用用具、器具類、材料及び調合
⑤ 工事の流れ
⑥ 仮設計画（足場、養生）
⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）
⑧ 確認、検査方法
⑨ 工事工程表
⑩ その他必要事項

2. 官公署その他への手続き等
一般建築工事の手続きのほか、地方公共団体が定めている手続きを行う。

3. 安全衛生管理

1) 建物内部で除去作業を行う場合は開閉部位（出入口、喚起孔、窓等）は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部分を、養生シート等で塞ぐものとする。
2) 建物外周部で除去作業を行う場合は、当該部分を養生シート等で囲う。
3) 施工区画入口に、「アスベスト含有成形板除去中、関係者以外の立ち入り禁止」を、作業場所の出入口に呼吸保護具着用を提示する。

4. 除去処理工事

1) アスベスト含有成形板の除去
i) 除去は、アスベストを含まない内装材及び外部建具等の撤去にさきがけて行う。
ii) 除去は可能な限り破壊又は破断を伴わない方法で行うものとし、原則として、「手ばらし」とする。
iii) 除去作業中は、原則として散水その他により、アスベスト含有成形板を常に湿潤な状態として作業を行う。
2) アスベスト含有成形板の集積、運搬等
i) 除去したアスベスト含有成形板の集積及び積み込みに当たっては、高所より投下しない等のほか、粉じんの飛散防止に努める。
ii) 細かく粉砕されたアスベスト含有成形板は、湿潤化の上、丈夫なビニール袋に入れる等、飛散防止の措置を講じる。
iii) 除去したアスベスト含有成形板を運搬するまでの間、現場内に保管する場合は、一定の保管場所を定め、一般の内装材と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止の措置を講じる。また、保管場所には、アスベスト含有成形板の保管場所であることの表示を行う。
iv) アスベスト含有成形板の運搬に当たっては、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い飛散防止に努める。
v) アスベスト含有成形板の撤去、集積、積み込み及び保管等の処理が完了した場合は、速やかに監督職員に報告し、確実に処理されたことの確認を受ける。
3) 除去物の処分等
i) アスベスト含有成形板は、関係法理等に依り適切に処分する。
ii) 撤去されたアスベスト含有成形板の処分が完了した場合は、マニフェストを監督職員に提出し、処分が確実に行われたことの確認を受ける。
なお、マニフェストは、アスベスト含有成形板であることを明示する。

5. 検査及び後片付け

1) 除去作業が終了後、アスベスト含有成形板の破片、破断粉および作業衣等に付着した粉じんが残存しないように、真空掃除機等により、清掃および片付けを十分に行う。
2) 監督職員の立会いのうえ、除去が十分に行われたことを、目視により検査を行う。

6. 施工記録

1) 施工記録報告書を作成し、監督職員に提出する。
2) 施工記録報告書は、6.7により作成する。

仕 上 復 旧 特 記 仕 様

1. 仮設工事

1) 危険防止

1) 仮囲い等
・ 設けない ※設ける
設置方法
・ 成形鋼板 (H= ㎜)
・ シート張り
・ ロープ張り
※施設管理者と協議の上、バリカーによる安全区画を行うものとする。
ゲート
・ シート (H= ㎜)
・ バネル (H= ㎜)
・ ハンガー (H= ㎜)
垂直防護施設
・ メッシュシート
・ 防炎シート
・ 防音シート
・ アルミ防音パネル ()
水平防護施設
・ 防護欄 (朝顔)
・ ダブルネット
・ ()
防護施設等取付足場
・ 単管一本足場
・ 枠組本足場 (H=)
・ ()
設置範囲 ※図示による
・ 監督員の指示による
設置期間 ※工事期間中
・ 監督員の指示による

2. 構 台

養生構台
・ 設置する (図示による)
・ 設置しない
乗入れ構台
・ 設置する (幅員 ㎜、長さ ㎜)
・ 設置しない

3. 工事表示板等

監督員の指示による。

4. 設備工事との
取合い

※施工区分表による
※施工範囲は下記による
※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強
※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強
※駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ
※自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強
・ ()
施工図 設備機器の設置、取合いなどの検討のできる施工図を提出して、監督員の承認を受ける。

5. 総合図での調整

各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承認を受ける。
総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報などをすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。
総合図の調整は、建築工事の請負者が行い、設備工事・その他の請負者がそれに協力する。
(14.4.2)(表14.4.1)

2. 仕上復旧工事

1. 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類
(14.4.2)(表14.4.1)
屋内 ※19形 ※25形
屋外 ※19形 ※25形
屋外における野縁等の間隔 () (14.4.3)

2. せつこうボード
その他ボード
及び合板張り

(14.4.3)

材 種	種 別	張 り 方	厚 さ	備 考
・ せつこうボード		・ 下地張り ・ 突付け ・ 上張り ・ 目透し	・ 9.5 ・ 12.5 ・ 15	
		・ 直張り ※突付け	※9.5	寸法
		・ 目透し ・ 継目処理 （裏張り付）	※9.5	専用軽鉄下地材付き
・ 化粧せつこう ボード	・ 15形・19形 ・ 直張り ・ 目透し ・ 継目処理 （裏張り付）	・ 直張り ※突付け	※9.5	寸法
		・ 目透し ・ 継目処理	※9.5	専用軽鉄下地材付き
・ 無石綿けい酸 カルシウム板		・ 目透し ・ 継目処理	※6 ・ 8 ・ 10 ・ 12 ・ ()	タイプⅡ（無石綿）
		・ 打込み ・ 張付け ・ 敷込み	・ 20 ・ 25 ・ 30	
・ 木質セメント板	・ 硬質木毛ひし板 ・ 普通木毛ひし板	・ 打込み ・ 張付け ・ 敷込み	・ 20 ・ 25 ・ 30	
		・ フラット ・ 凹凸	・ 下地張り ・ 突付け	・ 9.5 ・ 12.5
・ 繊維板 ・ 15形・19形 ・ ロックウール吸 音板	・ フラット ・ 凹凸	・ 下地張り ・ 突付け	・ 9.5 ・ 12.5	
		・ 目透し	・ 9.5	
・ しな合板 ・ ラウン合板		・ 下地張り ・ 突付け ・ 上張り ・ 目透し	・ 9.5 ・ 12.5	

ホルムアルデヒド放散量 ※☆☆☆☆
遮音シール材 ※アクリル系シーリング材
・ ジョイントコンパウンド

3. 吸音材

材 種

品 質 ・ 規 格

厚 さ

・ ロックウール吸音材
・ グラスウール吸音材

ロックウール吸音ボード1号 (60K)
グラスウール吸音ボード2号20K
ガラスクロス (JIS R3414+17A) 額縁張

・ 25
・ 25

※5

ガラスクロス張りグラスウール吸音ボード (910×1820) の取付け工法
ボロボロビレン及びプラスチックファスナー留め 4本/㎡程度以上

種 類

色 彩

厚 さ

・ 一般用
・ ()

・ 黄色
・ 原色

・ 10
・ 15
・ 20
・ ()

※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・ ()

種 類

色 彩

厚 さ

・ 一般用
・ ()

・ 黄色
・ 原色

・ 10
・ 15
・ 20
・ ()

※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・ ()

壁内の壁及び天井の塗装仕上げ材は、建築基準法に基づき防火材料の指定又は認定を受けたものとする。
(18.1.3)

塗料は、トルエン等の含有量が少ない規格品とする。
ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
・ ()

・ (一社) 日本塗装工業会の会員 ※監督員の承諾する塗装業者

除去工事作業の手順

除去工事作業の手順は「改修指針」図9.1.6による。

アスベスト除去写真
撮影要領

1 除去着工前の清掃
2 ビニール養生（床二重が分る撮影・養生室・機器養生等）
3 クリーンルームの撮影（設置状況、完了時）
4 負圧除塵装置撮影（フィルター確認状況を含む）
5 各種掲示板等の撮影
6 飛散抑制・防止剤噴霧施工時の写真
7 アスベスト除去時の撮影
8 袋詰め撮影
9 アスベスト除去後の確認時の撮影
10 飛散防止剤の吹付け時の撮影
11 産業廃棄物の処理状況の撮影
（保管状況、数量確認、積み込み、搬出、運搬、処理場搬入、荷下ろし、数量確認、退場の各状況）
12 各指定段階の濃度測定時の撮影
13 使用材料、配合状況及び使用機器の状況
14 その他、監督員が指示する箇所

承認覧

工事名称

建築野中学校管理教室内棟屋外壁改修工事

日 付

図面名称

アスベスト含有建材除去等工事特記仕様書 2

縮 尺

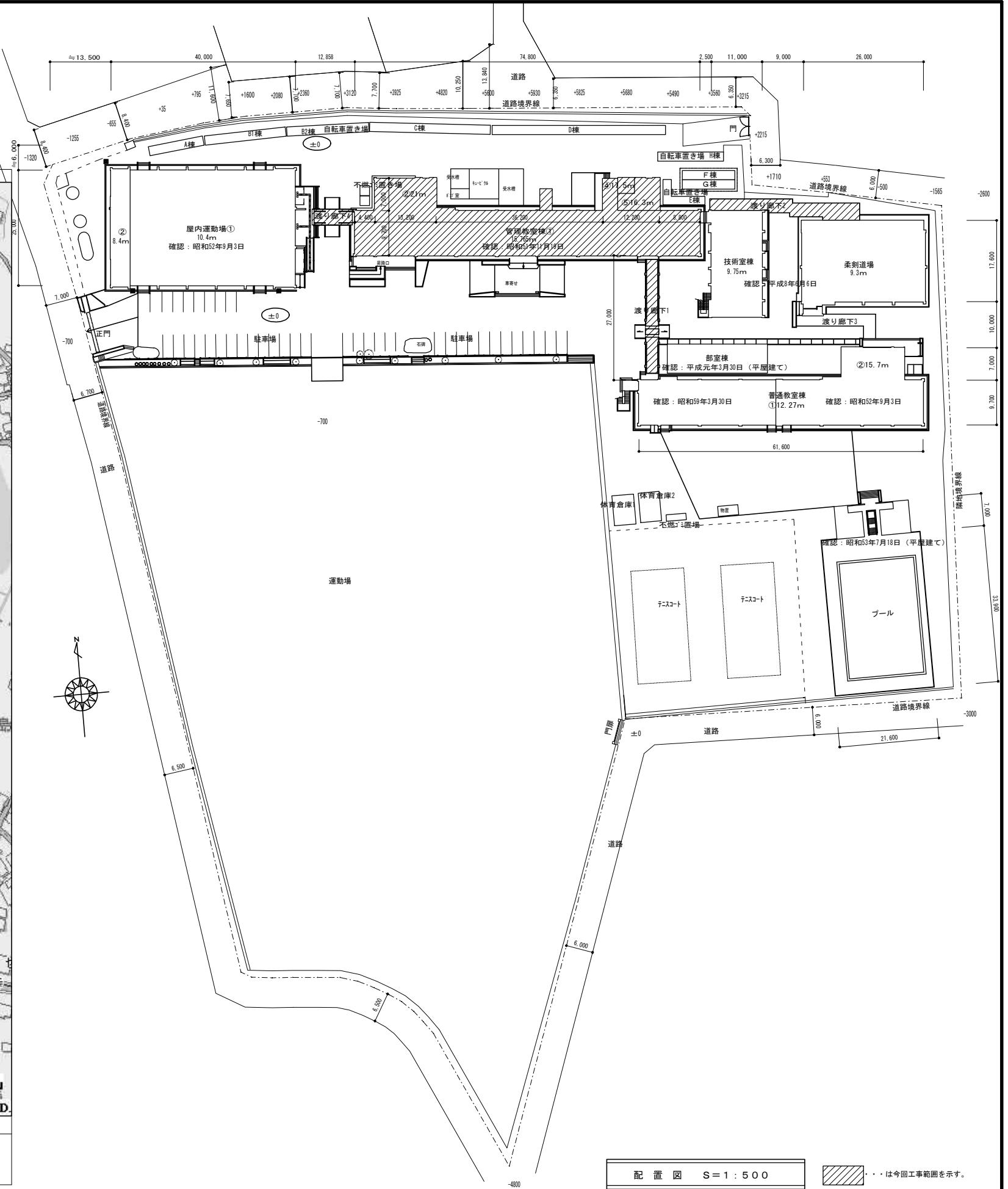
図 番

07 / 21

工事場所：福岡県筑紫野市針摺東4丁目6番1号

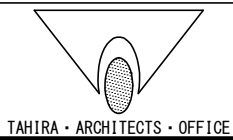


付近見取図

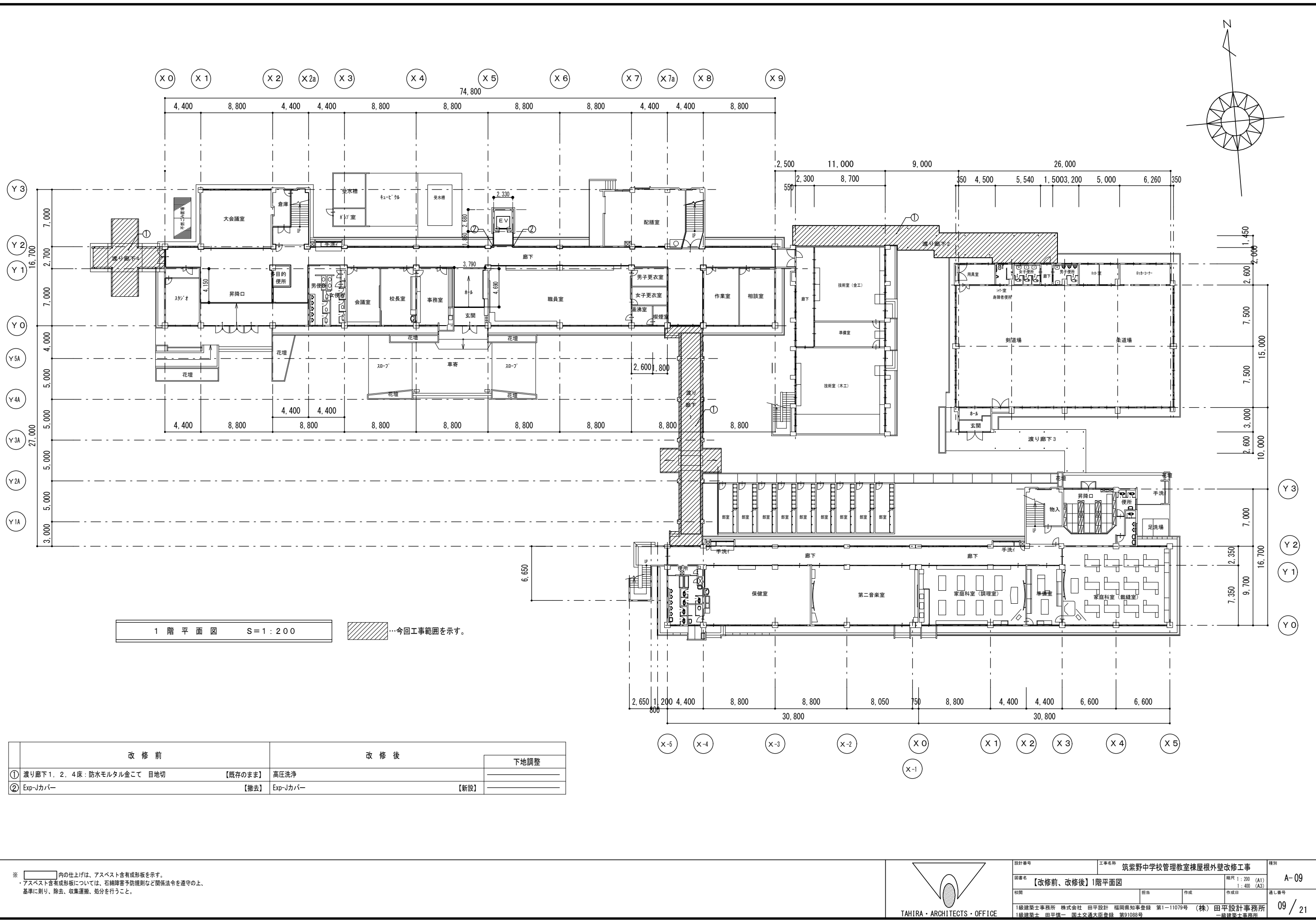


配置図 S = 1 : 5 0 0

・・・は今回工事範囲を示す。



設計番号	工事名称	種別
図番名	筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事	A-08
付近見取り図、配置図		
校開	担当	作成
1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県知事登録 第1-11079号 (株) 田平設計事務所		作成日
1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第91088号		通し番号
		08 / 21

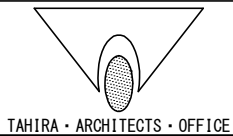


1 階 平 面 図 S=1 : 2 0 0

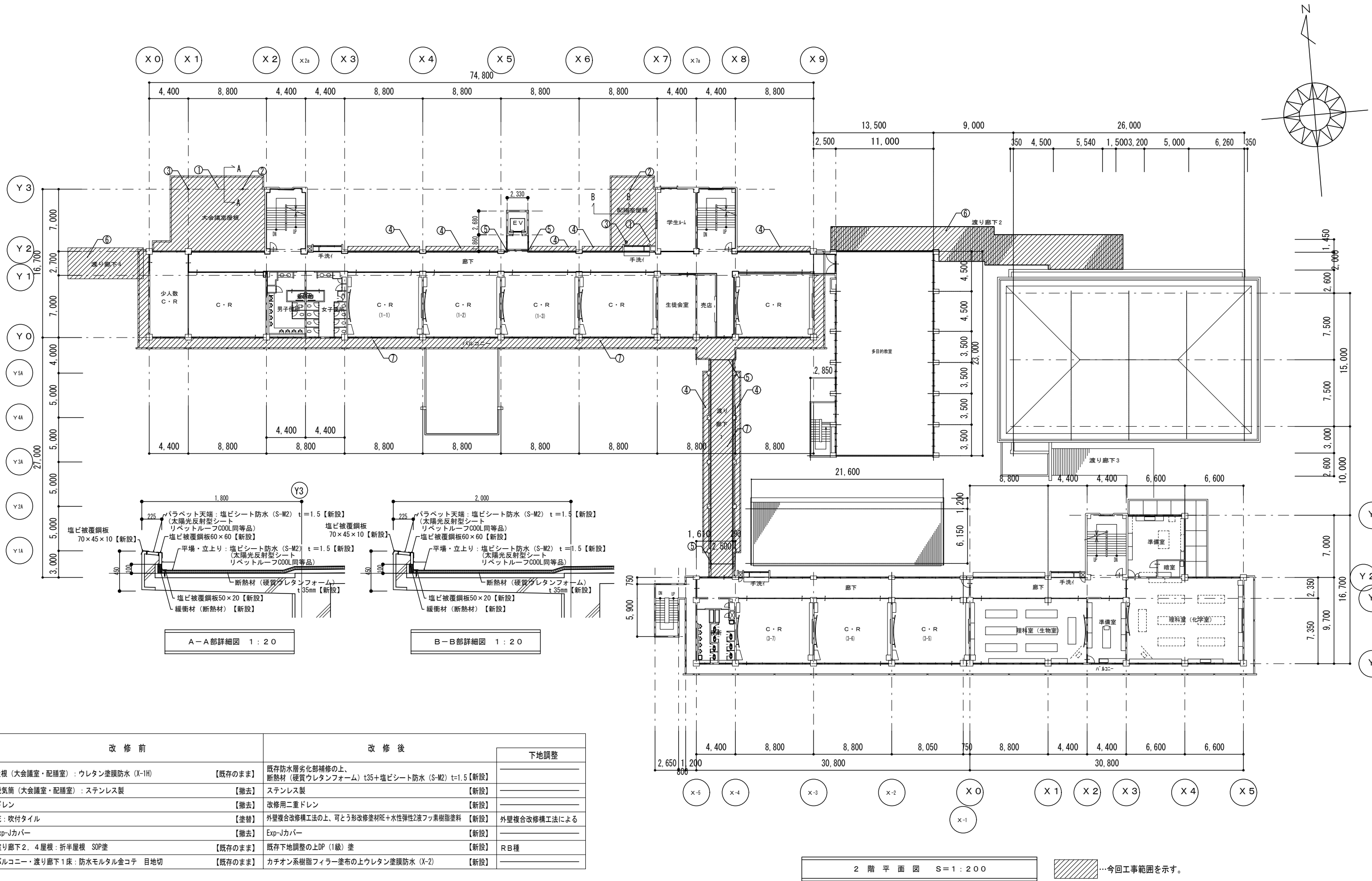
…今回工事範囲を示す。

改 修 前		改 修 後		下地調整
①	渡り廊下1, 2, 4床 : 防水モルタル金こて 目地切	【既存のまま】	高圧洗浄	
②	Exp-Jカバー	【撤去】	Exp-Jカバー	【新設】

※ 内の仕上げは、アスベスト含有成形板を示す。
・アスベスト含有成形板については、石棉障害予防規則など関係法令を遵守の上、基準に則り、除去、収集運搬、処分を行うこと。

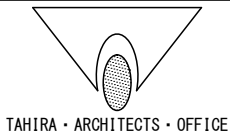


設計番号		工事名称		種別
図案名		【改修前、改修後】1階平面図		A-09
校名	校種	担当	作成	通し番号
1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県知事登録 第1-11079号 (株) 田平設計事務所		田平慎一	田平慎一	09 / 21
1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第91088号		1級建築士事務所		

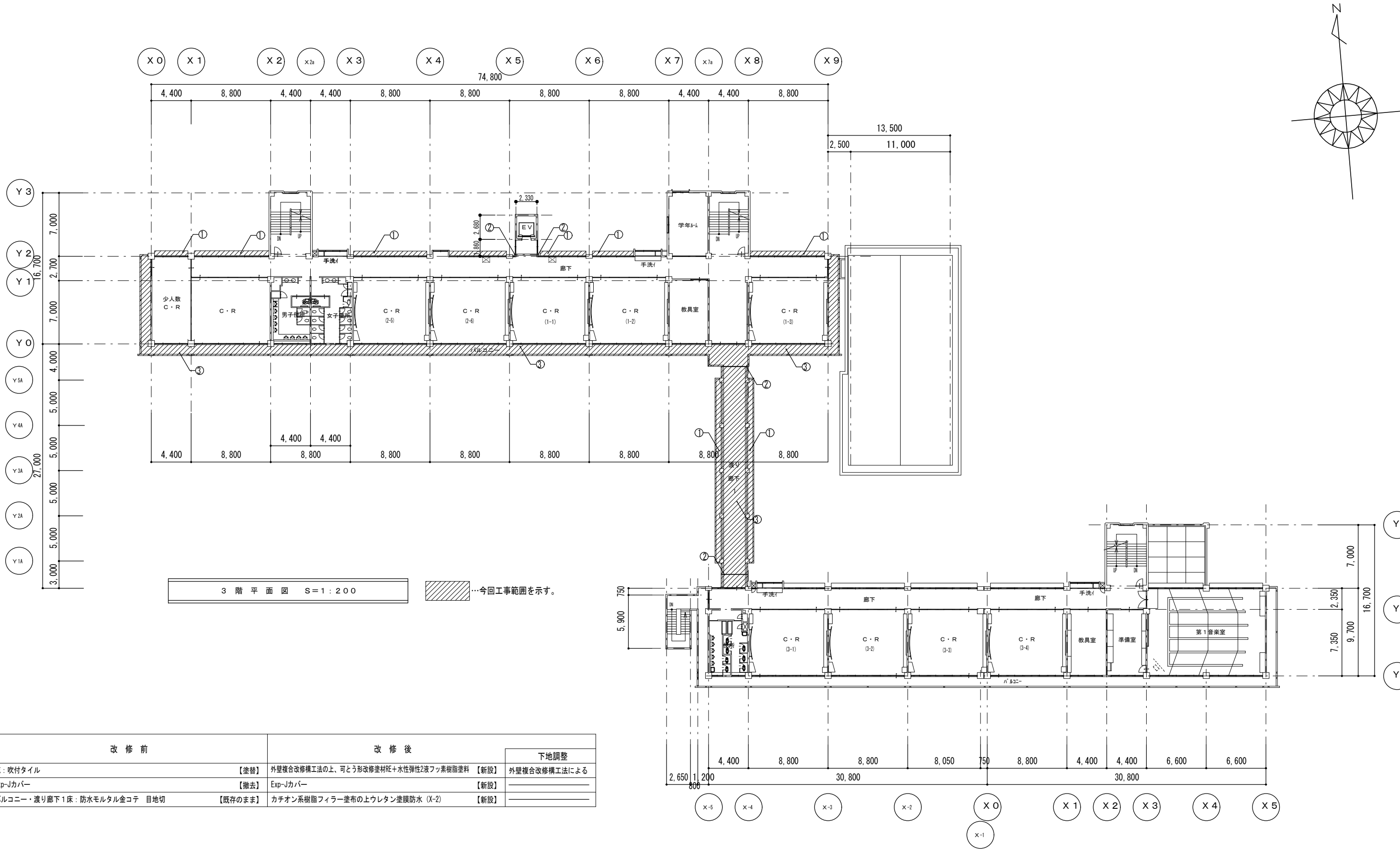


	改 修 前	改 修 後	下地調整
①	屋根（大会議室・配膳室）：ウレタン塗膜防水（X-1H）	【既存のまま】	既存防水層劣化部補修の上、断熱材（硬質ウレタンフォーム）t35+塩ビシート防水（S-M2）t=1.5【新設】
②	脱気筒（大会議室・配膳室）：ステンレス製	【撤去】	ステンレス製【新設】
③	ドレン	【撤去】	改修用二重ドレン【新設】
④	庇：吹付タイル	【塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材PE+水性弾性2液フッ素樹脂塗料【新設】
⑤	Exp-Jカバー	【撤去】	Exp-Jカバー【新設】
⑥	渡り廊下2、4屋根：折半屋根 SOP塗	【既存のまま】	既存下地調整の上DP（1級）塗【新設】
⑦	バルコニー・渡り廊下1床：防水モルタル金コテ 目地切	【既存のまま】	カチオン系樹脂フィラー塗布の上ウレタン塗膜防水（X-2）【新設】

※ 内の仕上げは、アスベスト含有成形板を示す。
・アスベスト含有成形板については、石綿障害予防規則など関係法令を遵守の上、基準に則り、除去、収集運搬、処分を行うこと。

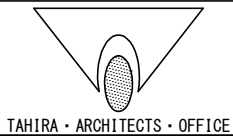


設計番号	工事名称	種別
図書名	筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事	A-10
校 区	【改修前、改修後】2階平面図	縮尺 1:200 (A1) 1:400 (A3)
1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県知事登録 第1-11079号	担当	作成
1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第91088号	作成日	通し番号
		10 / 21

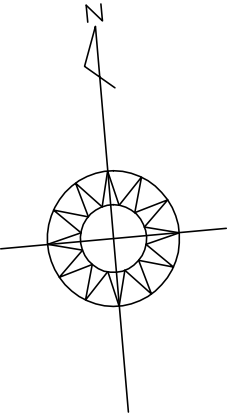


	改修前	改修後	下地調整
①	底：吹付タイル	【塗替】外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材PE+水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】外壁複合改修構工法による
②	Exp-Jカバー	【撤去】Exp-Jカバー	【新設】
③	バルコニー・渡り廊下1床：防水モルタル金コテ 目地切	【既存のまま】カチオン系樹脂フィラー塗布の上ウレタン塗膜防水 (X-2)	【新設】

※ 内の仕上げは、アスベスト含有成形板を示す。
・アスベスト含有成形板については、石棉障害予防規則など関係法令を遵守の上、基準に則り、除去、収集運搬、処分を行うこと。




設計番号	工事名称	種別
	筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事	
図書名	【改修前、改修後】3階平面図	縮尺 1:200 (A1) 1:400 (A3)
校間	担当	作成
1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県知事登録 第1-11079号	(株) 田平設計事務所	1級建築士事務所
1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第91088号		
通し番号	11	21



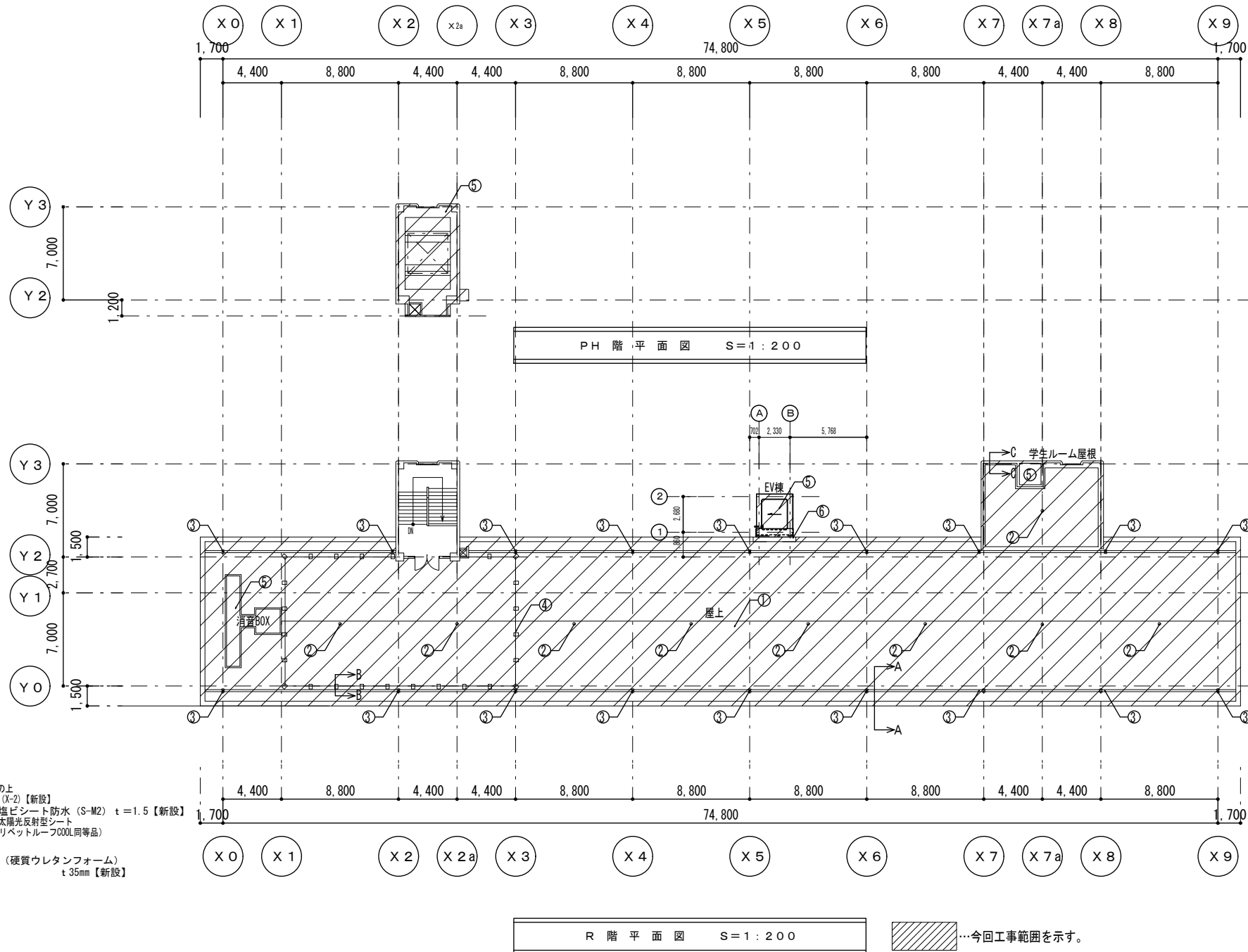
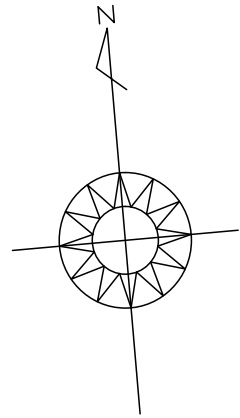
The diagram is a detailed architectural floor plan of a building. It features a long rectangular layout with a central vertical corridor. The plan includes various rooms, a staircase, and a small square structure at the top right. Dimensions are provided in meters (m) and millimeters (mm). Horizontal dimensions include 2,650, 1,200, 4,400, 8,800, 8,800, 8,050, 750, 8,800, 4,400, 4,400, 6,600, 6,600, 30,800, and 30,800. Vertical dimensions include 5,900, 750, 7,000, 2,350, 7,350, 9,700, and 16,700. Coordinate markers are placed around the perimeter: X-5, X-4, X-3, X-2, X-1, X 0, X 1, X 2, X 3, X 4, X 5 along the bottom and Y 0, Y 1, Y 2, Y 3 along the right side. A small square structure at the top right contains a staircase and is labeled with 'v'.

	改 修 前	改 修 後		下地調整
①	底：吹付タイル 【塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材珪+水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】	外壁複合改修構工法による
②	Exp-Jカバー 【撤去】	Exp-Jカバー	【新設】	_____
③	バルコニー：防水モルタル金コテ 目地切 【既存のまま】	カチオン系樹脂フィラー塗布の上ウレタン塗膜防水（X-2）	【新設】	_____
④	渡り廊下屋根：ウレタン塗膜防水（X-1H） 【既存のまま】	既存防水層劣化部補修の上塩ビシート防水（S-M2） $t=1.5$	【新設】	_____

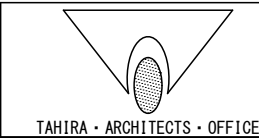


TAHIRA • ARCHITECTS • OFFICE

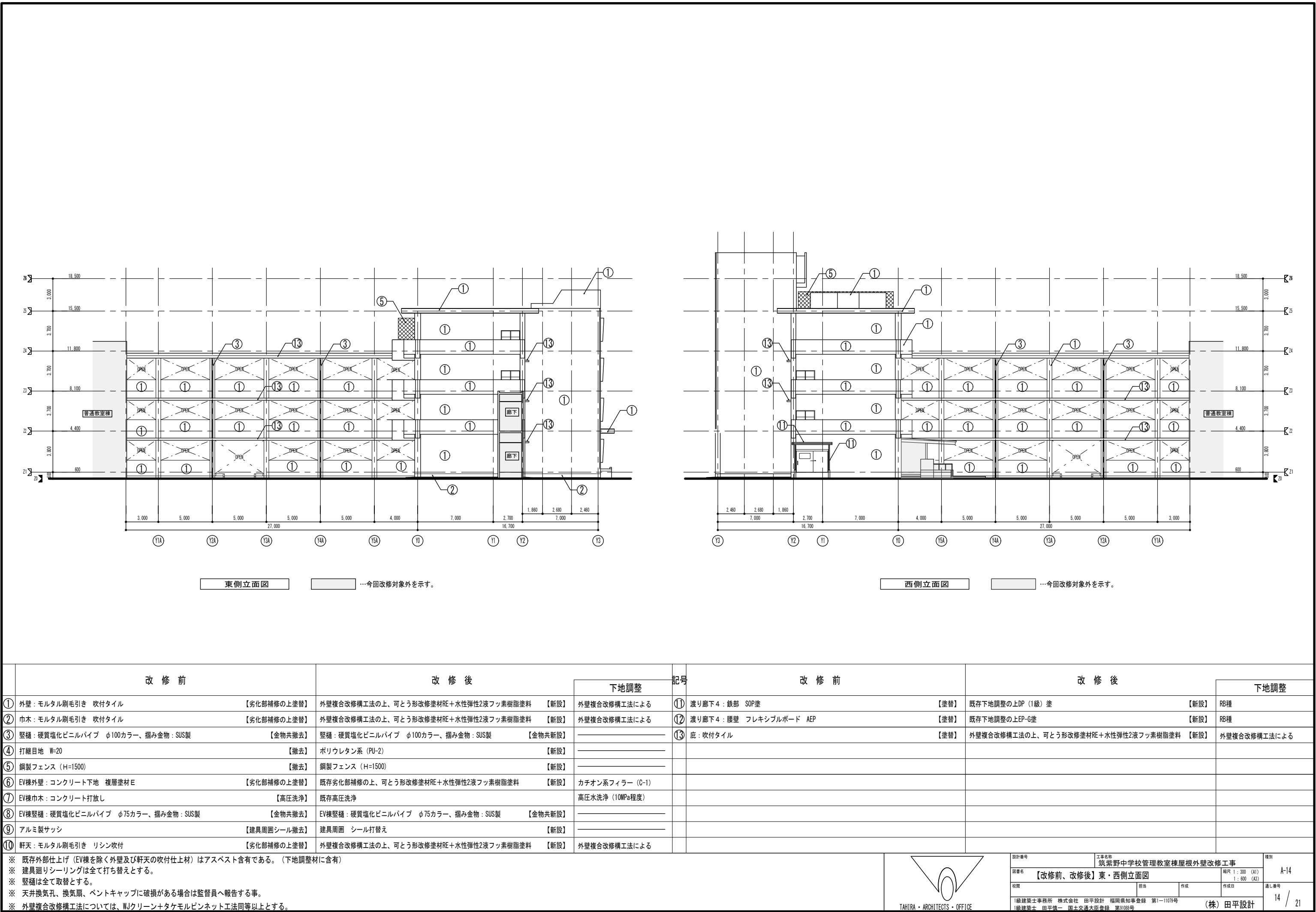
設計番号	工事名称			種別
	筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事			
図書名	【改修前、改修後】4階平面図			A-12
校図	担当	作成	縮尺 1:200 (A1) 1:400 (A3)	
1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県和歌寮館 第1-11079号 (株) 二級建築士事務所			作成日	送し番号
1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第91088号			二級建築士事務所	12 / 21

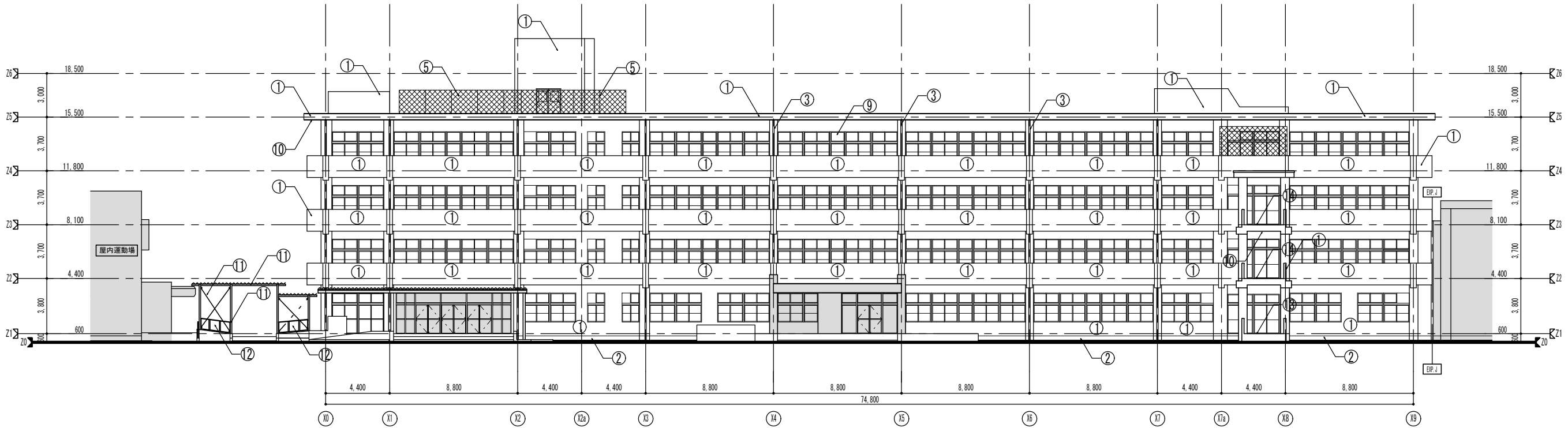


改 修 前		改 修 後	下地調整
① 屋上：ウレタン塗膜防水 (X-1H)	【既存のまま】	既存防水層劣化部補修の上、断熱材 (硬質ウレタンフォーム) t35+塩ビシート防水 (S-M2) t=1.5 【新設】	
② 脱気筒：ステンレス製	【撤去】	ステンレス製 【新設】	
③ ドレン	【撤去】	改修用二重ドレン 塩ビシート用 ストレーナー共 【新設】	
④ 鋼製フェンス	【撤去・支柱部コア抜き撤去】	鋼製フェンス 【新設】	
⑤ ウレタン塗膜防水 (X-2)	【水洗い清掃】	ウレタン塗膜防水 (X-2) 【新設】	
⑥ Exp-Jカバー	【撤去】	Exp-Jカバー 【新設】	



設計番号	工事名称	種別
図番名	筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事	A-13
校名	【改修前、改修後】R階平面図	縮尺 1:200 (A1) 1:400 (A3)
校種	担当	作成
1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県知事登録 第1-11079号 (株) 田平設計事務所	作成日	通し番号
1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第91088号		13 / 21

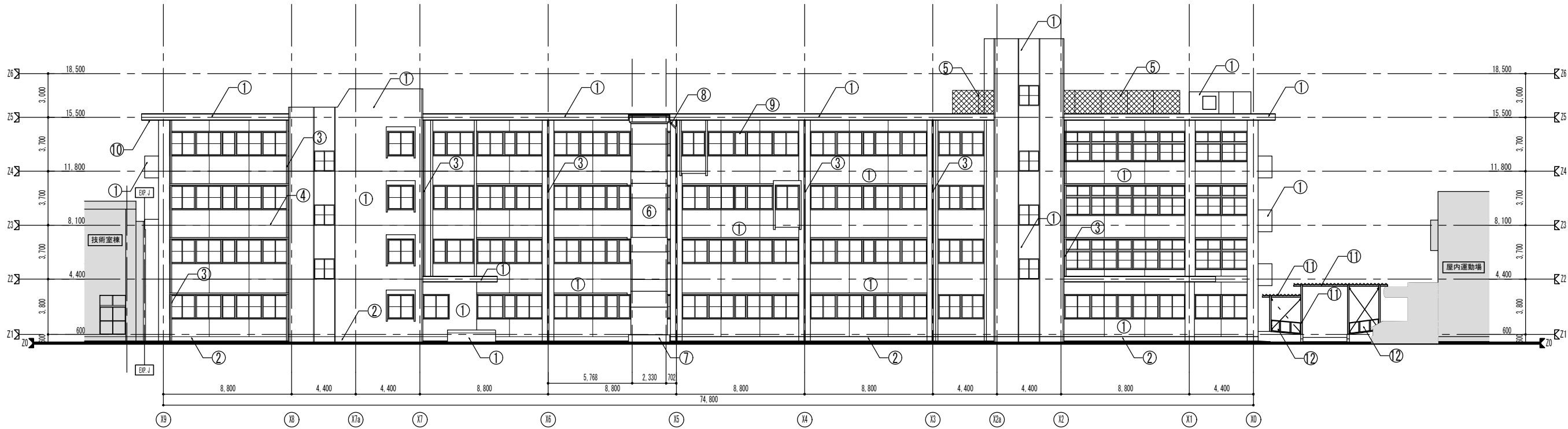




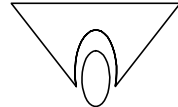
南側立面図

…今回改修対象外を示す。(改修済)

改 修 前		改 修 後		記号	改 修 前		改 修 後			
							下地調整			
①	外壁：モルタル刷毛引き 吹付タイル	【劣化部補修の上塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE＋水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】	⑪	渡り廊下4：鉄部 SOP塗	【塗替】	既存下地調整の上DP（1級）塗	【新設】	RB種
②	巾木：モルタル刷毛引き 吹付タイル	【劣化部補修の上塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE＋水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】	⑫	渡り廊下4：腰壁 フレキシブルボード AEP	【塗替】	既存下地調整の上EP-G塗	【新設】	RB種
③	堅樋：硬質塩化ビニルパイプ φ100カラー、掴み金物：SUS製	【金物共撤去】	堅樋：硬質塩化ビニルパイプ φ100カラー、掴み金物：SUS製	【金物共新設】	⑬	渡り廊下1：床 防水モルタル金コテ 目地切	【既存のまま】	既存高圧洗浄		
④	打継目地 W=20	【撤去】	ポリウレタン系（PU-2）	【新設】	⑭	渡り廊下1：床 防水モルタル金コテ 目地切	【既存のまま】	カチオン系樹脂フィラー塗布の上ウレタン塗膜防水（X-2）	【新設】	
⑤	鋼製フェンス（H=1500）	【撤去】	鋼製フェンス（H=1500）	【新設】						
⑥	EV棟外壁：コンクリート下地 複層塗材E	【劣化部補修の上塗替】	既存劣化部補修の上、可とう形改修塗材RE＋水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】		カチオン系フィラー（C-1）				
⑦	EV棟巾木：コンクリート打放し	【高圧洗浄】	既存高圧洗浄			高圧水洗浄（10MPa程度）				
⑧	EV棟堅樋：硬質塩化ビニルパイプ φ75カラー、掴み金物：SUS製	【金物共撤去】	EV棟堅樋：硬質塩化ビニルパイプ φ75カラー、掴み金物：SUS製	【金物共新設】						
⑨	アルミ製サッシ	【建具周囲シール撤去】	建具周囲 シール打替え	【新設】						
⑩	軒天：モルタル刷毛引き リシン吹付	【劣化部補修の上塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE＋水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】						
※ 既存外部仕上げ（EV棟を除く外壁及び軒天の吹付仕上材）はアスベスト含有である。（下地調整材に含有）					<div><div></div><div>TAHIRA・ARCHITECTS・OFFICE</div></div>					
※ 建具廻りシーリングは全て打ち替えとする。										
※ 堅樋は全て取替とする。										
※ 天井換気孔、換気扇、ベントキャップに破損がある場合は監督員へ報告する事。										
※ 外壁複合改修構工法については、WJクリーン＋タケモルピンネット工法同等以上とする。										
					設計番号					
					工事名称					
					図書名					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					
					校 関					



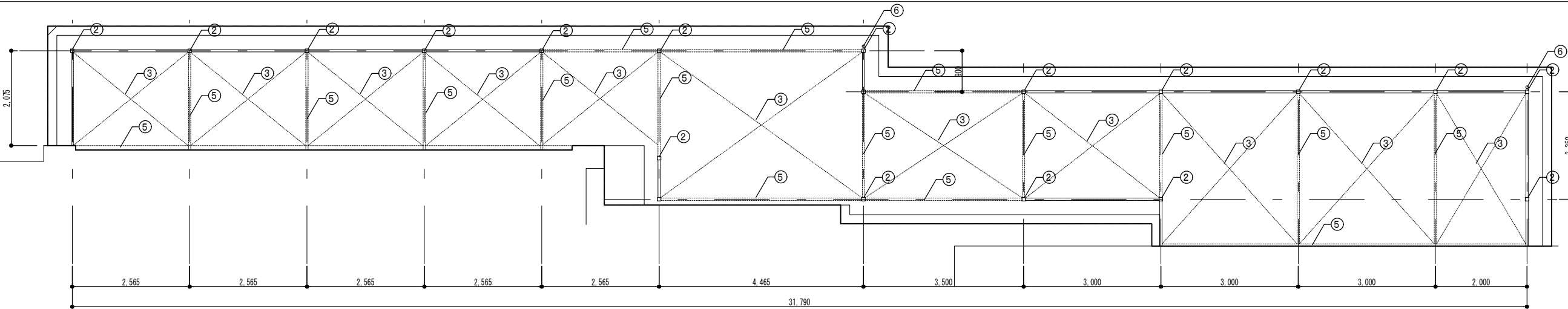
北側立面図

改 修 前		改 修 後		記号	改 修 前		改 修 後								
							下地調整								
①	外壁：モルタル刷毛引き 吹付タイル	【劣化部補修の上塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE＋水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】	外壁複合改修構工法による	⑪	渡り廊下4：鉄部 SOP塗	【塗替】	既存下地調整の上DP（1級）塗	【新設】	RB種				
②	巾木：モルタル刷毛引き 吹付タイル	【劣化部補修の上塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE＋水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】	外壁複合改修構工法による	⑫	渡り廊下4：腰壁 フレキシブルボード AEP	【塗替】	既存下地調整の上EP-G塗	【新設】	RB種				
③	堅樋：硬質塩化ビニルパイプ φ100カラー、掴み金物：SUS製	【金物共撤去】	堅樋：硬質塩化ビニルパイプ φ100カラー、掴み金物：SUS製	【金物共新設】	_____										
④	打継目地 W=20	【撤去】	ポリウレタン系（PU-2）	【新設】	_____										
⑤	鋼製フェンス（H=1500）	【撤去】	鋼製フェンス（H=1500）	【新設】	_____										
⑥	EV棟外壁：コンクリート下地 複層塗材E	【劣化部補修の上塗替】	既存劣化部補修の上、可とう形改修塗材RE＋水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】	カチオン系フィラー（C-1）										
⑦	EV棟巾木：コンクリート打放し	【高圧洗浄】	既存高圧洗浄		高圧水洗浄（10MPa程度）										
⑧	EV棟堅樋：硬質塩化ビニルパイプ φ75カラー、掴み金物：SUS製	【金物共撤去】	EV棟堅樋：硬質塩化ビニルパイプ φ75カラー、掴み金物：SUS製	【金物共新設】	_____										
⑨	アルミ製サッシ	【建具周囲シール撤去】	建具周囲 シール打替え	【新設】	_____										
⑩	軒天：モルタル刷毛引き リシン吹付	【劣化部補修の上塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE＋水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】	外壁複合改修構工法による										
※ 既存外部仕上げ（EV棟を除く外壁及び軒天の吹付仕上材）はアスベスト含有である。（下地調整材に含有）						<div></div> <div>TAHIRA・ARCHITECTS・OFFICE</div>		設計番号		工事名称 筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事		種別			
※ 建具廻りシーリングは全て打ち替えとする。								図書名 【改修前、改修後】北側立面図		縮尺 1：300（A1） 1：600（A3）		A-16			
※ 堅樋は全て取替とする。								校 関		担 当		作 成		作成日	
※ 天井換気孔、換気扇、ベントキャップに破損がある場合は監督員へ報告する事。								1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県知事登録 第1-11079号				(株) 田平設計		通し番号	
※ 外壁複合改修構工法については、WJクリーン＋タケモルビンネット工法同等以上とする。								1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第81088号						16 / 21	

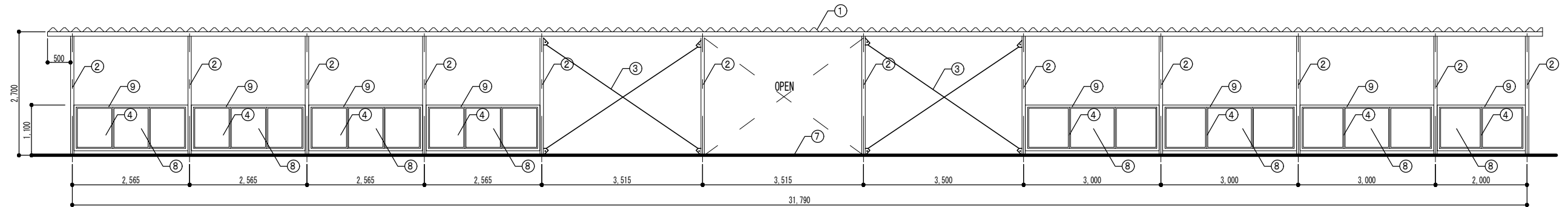


改 修 前		改 修 後		下地調整
①	アルミ製サッシ	【建具周囲シール撤去】	建具周囲 シール打替え	【新設】
②	屋上：ウレタン塗膜防水 (X-1H)	【既存のまま】	既存防水層劣化部補修の上、 断熱材 (硬質ウレタンフォーム) t35+塩ビシート防水 (S-M2) t=1.5	【新設】
③	外壁・軒天：モルタル刷毛引き 吹付タイル	【劣化部補修の上塗替】	外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE+水性弾性2液フッ素樹脂塗料	【新設】
④	鋼製フェンス	【撤去・支柱部コア抜き撤去】	鋼製フェンス	【新設】
⑤	縦樋：硬質塩化ビニルパイプ φ100カラー、掘み金物：SUS製	【金物共撤去】	硬質塩化ビニルパイプ φ100カラー、掘み金物：SUS製	【金物共新設】
⑥	バルコニー床：防水モルタル金コテ 目地切	【既存のまま】	カチオン系樹脂フィラー塗布の上ウレタン塗膜防水 (X-2)	【新設】
⑦	犬走り：モルタルコテ磨き	【既存のまま】	高圧洗浄	

渡り廊下2



平面図兼小屋伏図

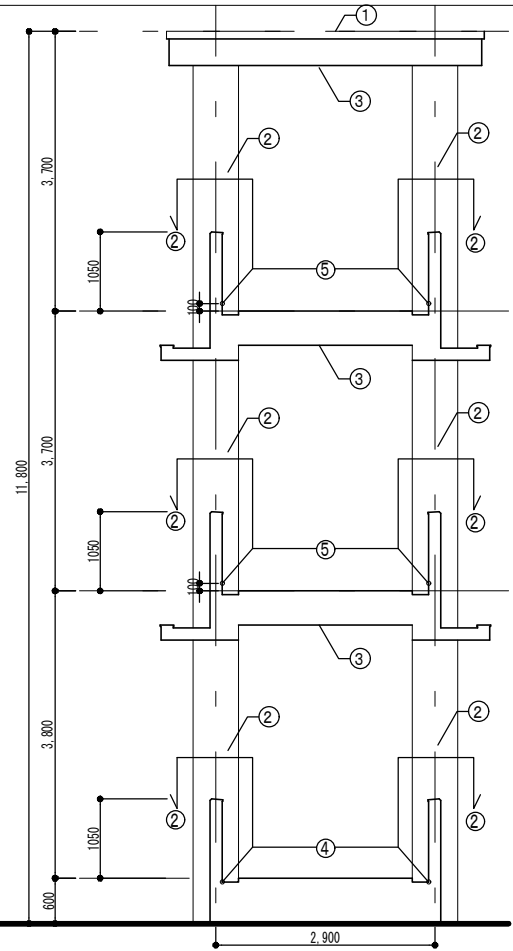


立面図

部材リスト

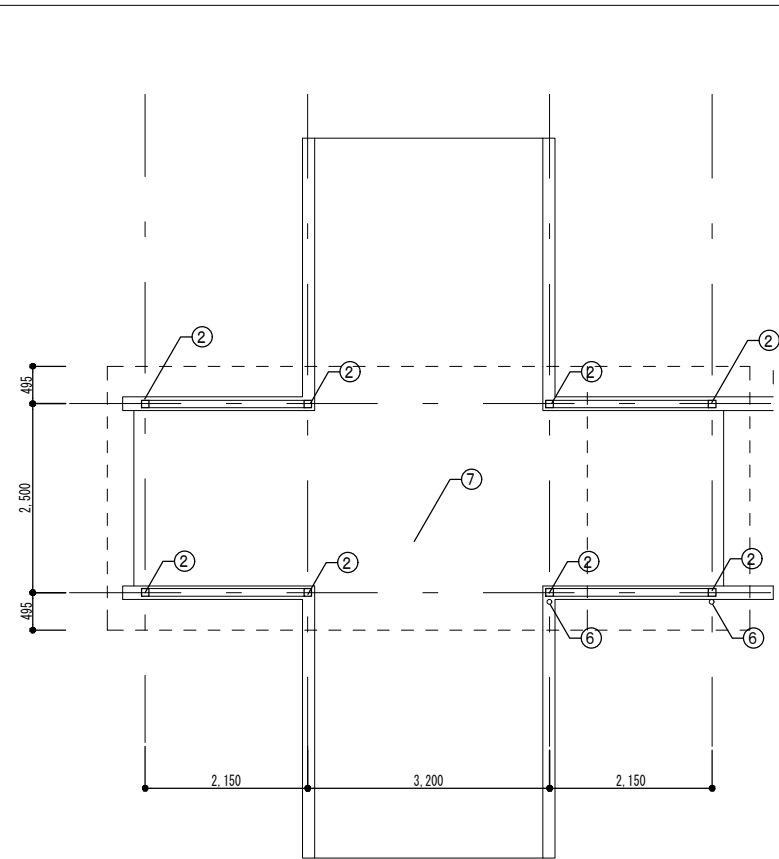
①	屋根：ガルバリウム鋼板 折版葺き 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
②	柱：□-75×75×2.3 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
③	ブレース：φ12 I-M12 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
④	鉄部枠：L-25×25×3 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
⑤	□-100×50×20×2.3 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
⑥	軒樋・壁樋φ75 カラーVP 【撤去・金物既存のまま】 改修 軒樋・壁樋φ75 カラーVP 【新設】
⑦	床：防水モルタル 目地切 【既存のまま】 改修 高圧洗浄
⑧	腰壁：フレキシブルボード AEP 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RC種) の上EP-G塗
⑨	手摺：□-50×50×2.3 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗

渡り廊下1

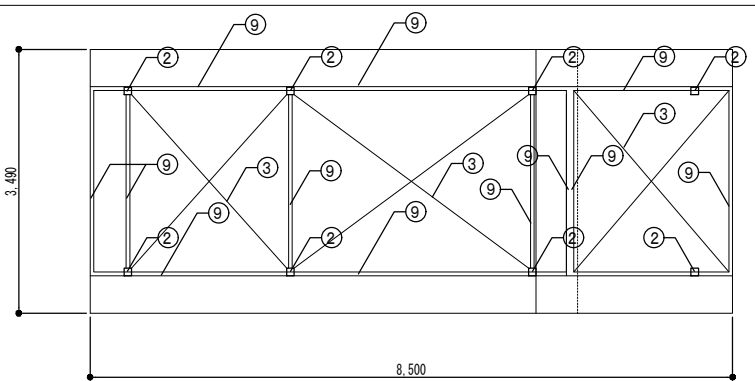


①	屋根：ウレタン塗膜防水 (X-1H) 改修 既存防水層劣化部補修の上 塩ビシート防水 (S-M2) t=1.5
②	外壁・柱型・手摺壁：モルタル刷毛引き 吹付タイル 改修 外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE +水性弾性2液フッ素樹脂塗料
③	軒天・天井：モルタル刷毛引き 吹付タイル 改修 外壁複合改修構工法の上、可とう形改修塗材RE +水性弾性2液フッ素樹脂塗料
④	床：防水モルタル 目地切 改修 高圧洗浄
⑤	床：防水モルタル 目地切 改修 カチオン系樹脂フィラー塗布の上 ウレタン塗膜防水 (X-2)

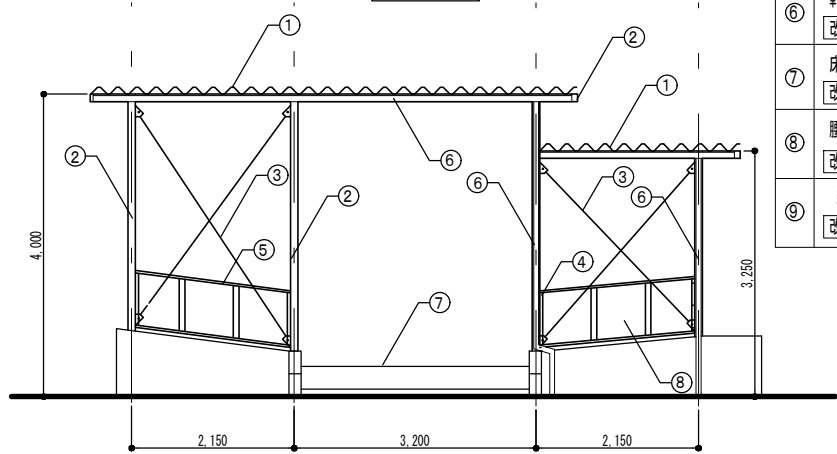
渡り廊下4



平面図



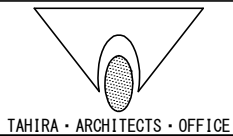
小屋伏図



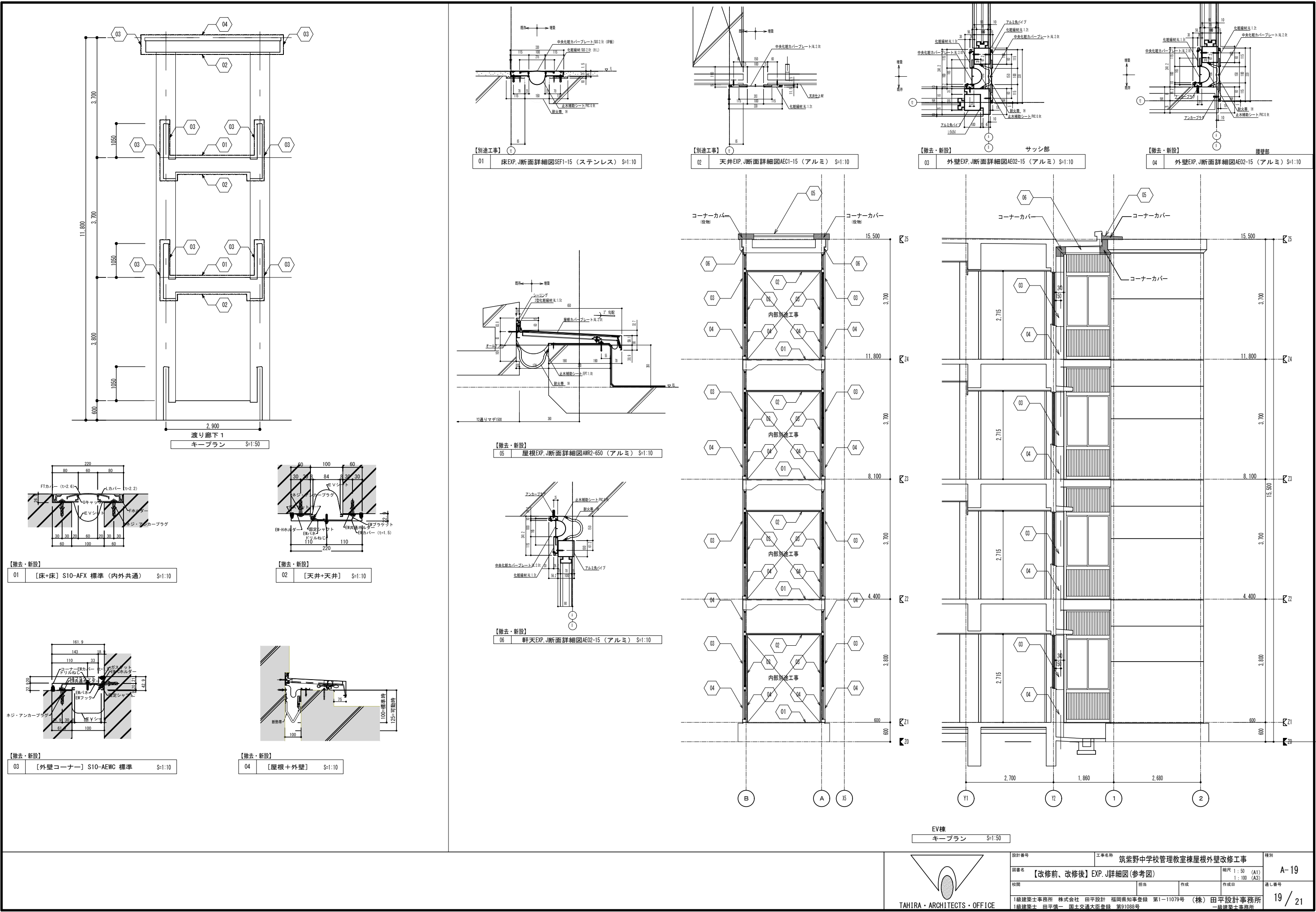
立面図

部材リスト

①	屋根：ガルバリウム鋼板 折版葺き 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
②	柱：□-100×100×2.3 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
③	ブレース：φ12 I-M12 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
④	鉄部枠：L-25×25×3 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
⑤	□-100×50×20×2.3 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗
⑥	軒樋・壁樋φ75 カラーVP 【撤去・金物既存のまま】 改修 軒樋・壁樋φ75 カラーVP 【新設】
⑦	床：防水モルタル 目地切 【既存のまま】 改修 高圧洗浄
⑧	腰壁：フレキシブルボード AEP 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RC種) の上EP-G塗
⑨	梁：□-100×50×20×2.3 【下地調整の上塗替】 改修 下地調整 (RB種) の上DP (1級) 塗



設計番号	工事名称	種別
図書名	筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事	A-18
【改修前、改修後】1,2,4渡り廊下詳細図	縮尺 1:50 (A1) 1:100 (A3)	
校則	担当	作成
1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県知事登録 第1-11079号 (株) 田平設計事務所	1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第91088号	1級建築士事務所
18	21	



外部改修参考数量 ※下記数量は参考であり、着工後調査を行う事。

※既存外部仕上材（外壁、軒天）は、アスベスト含有である。（下地調整材に含有。）

			設計数量						予想数量					
	改修部大きさ	工 法	単位	北面	南面	東面	西面		北面	南面	東面	西面		合計
ひび割れ	0.2mm 未満	シーリング工法（可とう性エポキシ樹脂）	m					0						0
	0.5mm 以上	Uカット工法（ポリウレタン系シーリング材）	m	23.0	32.8	0.90	2.80	59.5	34.5	49.2	1.35	4.2		89.25
モルタル浮き	0.25㎡ 未満	アンカーピンニング 部分注入工法 一般部	㎡	0.12	0.12		0.24	0.48	0.48	0.48		0.96		1.92
		アンカーピンニング 部分注入工法 指定部	㎡	0.35				0.35	0.35					1.4
		アンカーピンニング 部分注入工法 狭幅部	m					0						0
	0.25㎡ 以上	アンカーピンニング 部分注入工法 一般部	㎡					0						0
	1.0㎡ 未満	アンカーピンニング 部分注入工法 指定部	㎡	0.40				0.40	0.40					1.6
		アンカーピンニング 部分注入工法 狭幅部	m					0						0
	1.0㎡ 以上	カッター入れモルタル撤去・不陸調整	㎡					0						0
欠損 *1,*3	100×100 以下	ポリマーセメントモルタル充填工法 一般部	箇所				1	1				2		2
		ポリマーセメントモルタル充填工法 指定部	箇所					0						0
	200×200 以下	ポリマーセメントモルタル充填工法 一般部	箇所	1				1	2					2
		ポリマーセメントモルタル充填工法 指定部	箇所					0						0
	400×400 以下	下地調整材による不陸調整 一般部	箇所	4				4	6					6
		下地調整材による不陸調整 指定部	箇所					0						0
	500×500 以下 (0.25㎡以下)	下地調整材による不陸調整 一般部	箇所				1	1				2		2
		下地調整材による不陸調整 指定部	箇所					0						0
	500×500 超 (0.25㎡超)	下地調整材による不陸調整 一般部	㎡					0						0
		下地調整材による不陸調整 指定部	㎡					0						0
Pコン穴	0.03㎡未満	防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 一般部	箇所					0						0
爆裂処理 露筋処理 *1,*3	100×100 未満	防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 一般部	箇所					0						0
		防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 指定部	箇所					0						0
	100×300 未満	防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 一般部	箇所					0						0
		防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 指定部	箇所	4	12		4	20	6	18		6		30
	100×800 未満	防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 一般部	箇所					0						0
		防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 指定部	箇所	4	11		3	18	6	17		5		28
	800 以上	防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 一般部	箇所					0						0
		防錆処理＋ポリマーセメントモルタル充填 指定部	箇所		11			11		17				17
タイル	ひび割れ 0.2～1.0以下	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法：エポキシ樹脂低圧注入 200～300間隔	㎡					0						0
	欠損	タイル部分張替え工法：下地処置＋塗り付け＋タイル張り	㎡					0						0
	浮き	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	㎡					0						0
塗膜浮き 塗膜剥離 *2 (アスベスト含有)	一般部		㎡											
	指定部		㎡					0						0
破損	天井換気孔（★★製）		箇所					0						0

【補正値の算出】

①目視による場合






補正値 = 1.5

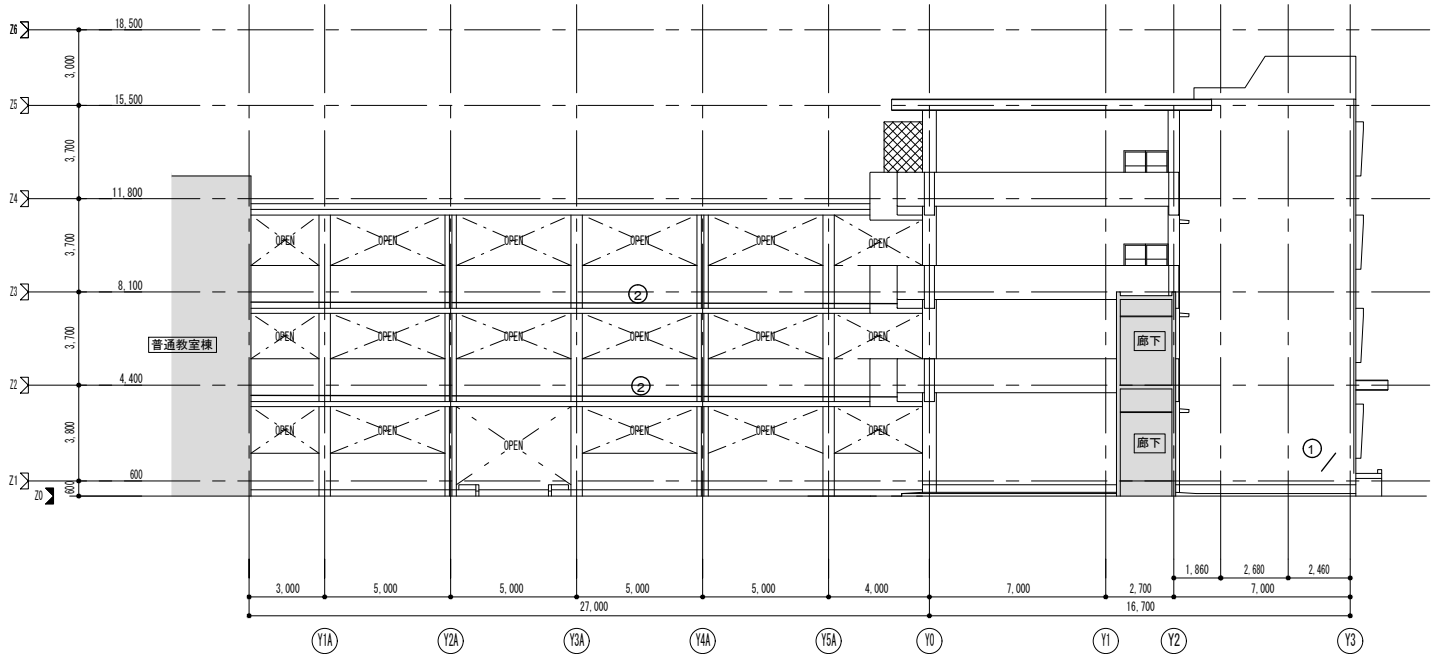
②打診による場合

面積算定による時

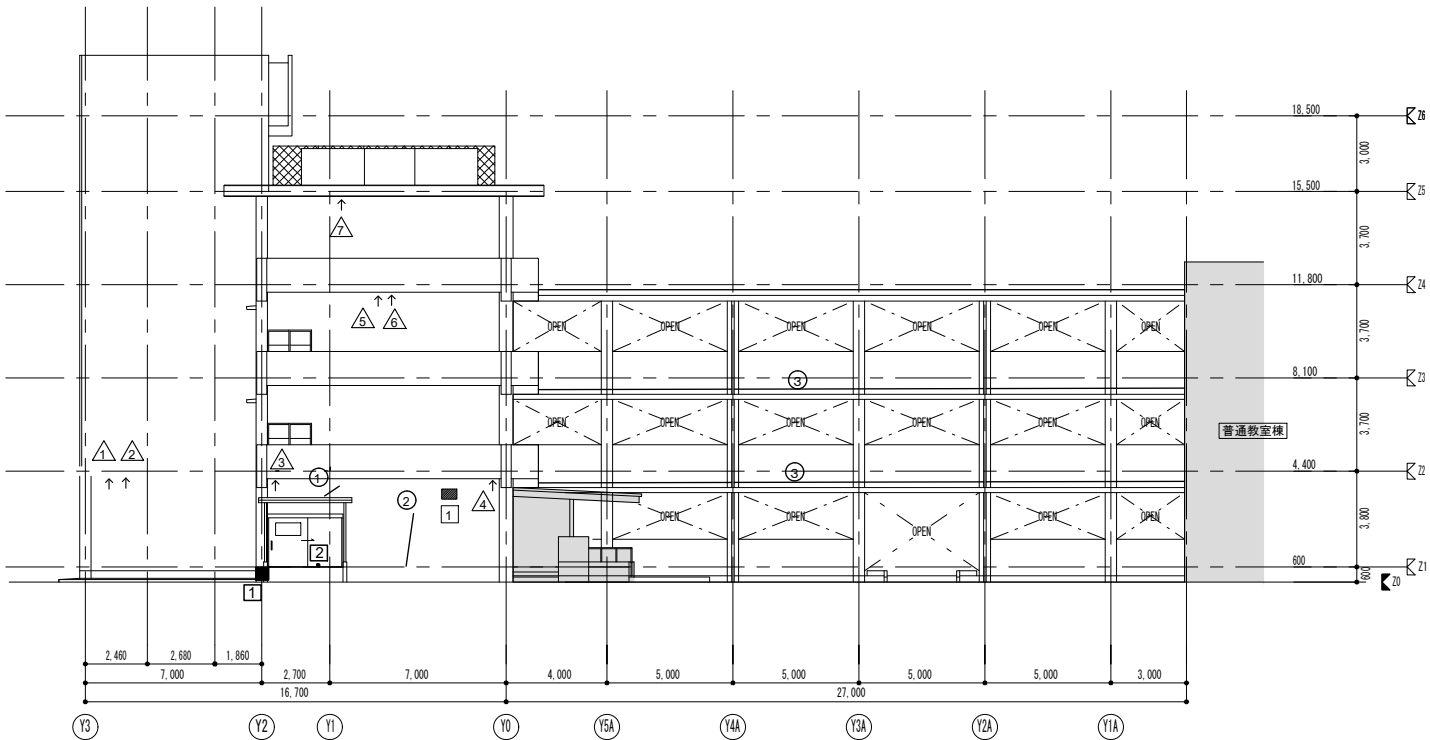
補正値 = 対象外壁面積（建具面積を除く） / 調査実施面積

= 2,094.62 ㎡ / 555.9 ㎡ = 3.77 ≒ 4.00

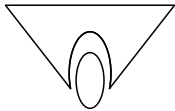
凡 例			
記 号	名 称	記 号	名 称
	ひび割れ		モルタルの浮き
	爆裂		欠損
	その他劣化		



東側立面図



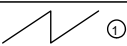
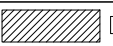
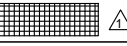
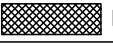

西側立面図



TAHIRA・ARCHITECTS・OFFICE

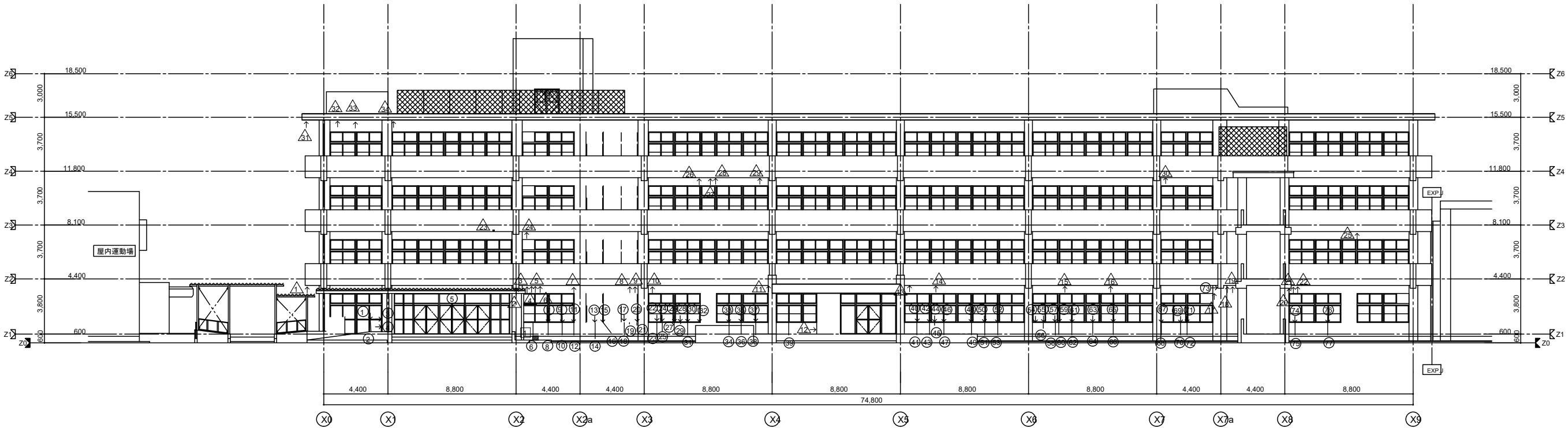
設計番号		工事名称 筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事			種別
図書名 外壁劣化数量表・外壁劣化調査図 1		縮尺 1:100 (A1) 1:200 (A3)			A-20
校名	担当	作成	作成日	通し番号	
1級建築士事務所 株式会社 田平設計 福岡県知事登録 第1-11079号			(株) 田平設計		
1級建築士 田平慎一 国土交通大臣登録 第81088号					
				20 / 21	

(株) 田平設計

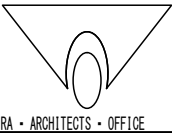
凡 例			
記 号	名 称	記 号	名 称
 ①	ひび割れ	 ①	モルタルの浮き
 △	爆裂	 ①	欠損
	その他劣化		



北側立面図



南側立面図



設計番号	工事名称	種別
図書名	筑紫野中学校管理教室棟屋根外壁改修工事	A-21
校 名	外壁劣化調査図2	縮尺 1:100 (A1) 1:200 (A3)
校 長	田平 啓一	作成 田平 啓一
校 務	田平 啓一	通し番号 21 / 21
校 務	田平 啓一	